

令和元年北海道胆振東部地震厚真町追悼式 式辞

本日ここに、ご遺族並びにご来賓、震災尽力者のご臨席のもと、令和元年北海道厚真町追悼式を挙げるにあたり、北海道胆振東部地震で犠牲となられた御霊に対して、町民を代表して謹んで哀悼の言葉を申し上げます。

本町に甚大な被害をもたらした北海道胆振東部地震から1年が過ぎましたが、その震災により犠牲となられた皆さんは、厚真町にとってかけがえのない方々ばかりでした。平成30年9月6日午前3時7分、自らの人生を振り返る暇もなく、残す家族に託す思いも伝えることができないまま時が止まりました。その不条理な痛恨事にさぞかし無念であったろうと思うと、尽きることのない悲しみが胸にこみあげてまいります。ましてや最愛のご家族やご親戚、ご友人を失われた方々の決して癒えることのない悲しみの深さは、察するに余りあり、ここに改めて、犠牲になられた37名とご遺族の皆様には衷心より哀悼の誠を捧げます。

本町を中心にマグニチュード6.7、震度7を記録した大地震により北海道全域が被災地となり、胆振東部3町以外でも札幌市など多くの地域で甚大な被害が発生しました。社会資本や個人資産への被害が広範囲にわたりましたが、震源地である胆振東部3町においては、4,300ヘクタールにも及ぶ山腹崩壊が伴いました。特に本町では北部山間地を中心として3,200ヘクタールにも達する地滑りが発生しましたが、そこには自然と共存してきた人々の暮らしがありました。37人の犠牲者が暮らした幌内、富里、高丘、吉野、桜丘、朝日、幌里は、一様に開拓以来、鬱蒼とした原始の森を切り開きながら、幾多の困難を協働の力で乗り越えてきた地域であります。清流と豊かな森、穏やかな時間の中に抱かれて人々の暮らしと命のリレーがありました。

9月6日未明、私たちの想像を超えた大規模な地震動により、多くの犠牲者とともに住宅被害は全壊、大規模半壊、半壊を合せて560棟を数え、インフラや生産基盤への被害が全町に広がるなど、悲しい出来事があった町として全国から注目されることになりました。私たちに多くの恵をもたらす豊かな自然は、時として無慈悲なまでに猛威を振ります。私たちは、そんな大自然の脅威に抗う術を持ちませんが、それでも助け合い、地道な努力を繰り返し積み重ねることで、今日の繁栄を成し遂げてきました。「家、家にあらず継ぐをもって家となす。」世阿弥の言葉と伝えられています。紡いだ地域の歴史と伝統、そして受け継がれた家族の願いと希望が重なります。一人一人の力は小さくとも、みんなの知恵と力を合せて、様々な困難を乗り越えてきました。終わりからまた始める、躓いては立ち上がる、失っては作り始める、幸せも悲しみも分かちあってきた人々の歴史がそこにあります。

昨年の慰霊式の際に、遺族代表から「犠牲の大きさや悲しみにとらわれて、私たちが立ち止まることを望まない」とのご挨拶があり、参列者の心を揺さぶりました。悲しみの中にあって先人の足跡に思いを馳せ、その生きざまを自らの道標とするために時間は必要ですが、今こそ私たちは先人の努力を受け継いで、その先の道へ進む決意を新たにしなければなりません。悲しい町では終わらせない私たちの決意、私たちが再び立ち上がり、犠牲になられた方々が愛したこの町を再び輝かせるために、私たちが力を合せることこそ、悲しみの淵に立つ私たち自身が求めている答えだと考えています。

ここで、改めて発災直後から96時間にわたり、不眠不休の捜索活動を実施していただいた、警察、消防、自衛隊の皆様には、当地での困難を極めた救助活動を展開していただき

心から感謝を申し上げます。また、迅速な捜索活動を支援するため啓開作業や後方支援を担っていただいた国、北海道、そして全国の関係機関の皆様にも、大変なご尽力に厚真町民を代表して厚くお礼を申し上げます。

発災から時が経過する中で、国の直轄砂防応急工事はほぼ完了し、北海道の治山・砂防工事、農地や宅地堆積土砂の除去、災害廃棄物の処理、統合浄水場その他公共土木施設等の災害復旧工事も関係者のご理解とご協力、そして関係機関のご尽力により順調に進捗しています。一方で、まだ多くの方が仮設住宅や被災住宅等でご不便な生活を余儀なくされており、恒久的住宅対策として住宅再建支援策など関係者との意見交換を丁寧に進めながらも、住宅地の確保や災害公営住宅、高齢者福祉施設等の建設計画など災害救助法の適用期限を見据えた取り組みを加速していかなければなりません。また、被災山間地の再生や地滑りがあった宅地の耐震化、防災拠点施設整備、森林再生・山地復旧と生業や生活空間の復興など技術的課題や財源確保などまだまだ多くの困難が予想されますが、町民の皆様と共有する厚真町復旧復興計画を策定し、実行に移しながら、令和の時代とともに着実に厚真町の復旧復興の歴史を綴ってまいります。

昨年11月15日には上皇、上皇后両陛下が厚真町に行幸啓され、私たちに勇気を与えてくださいました。全道全国各地から駆けつけていただいたエキスパートやボランティアの皆様を支えられ、更には、多くの国民の皆様から物心両面でご支援をいただきました。私たちは、かけがえのないものをたくさん失いましたが、厚真町を応援してくれる多くの方との新たな出会いがあり、新たな“絆”が生まれています。全国から寄せられた温かい真心に応え、遠く険しい道のりではありますが、先人や震災で犠牲になられた方々から託された郷土厚真町の輝きを取り戻すため、町民の皆様と一丸となって立ち上がり、より一層の努力を重ねてまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。

結びに、犠牲となられた37名の御霊が永遠に安らかならんことをお祈り申し上げますとともにご遺族の皆様のご平安とご健勝を心から祈念し、式辞といたします。

令和元年9月7日

厚真町長 宮坂尚市朗